



同「ウィーキーレームール」新聞抄譯

リ
窮ヲ免カレシニ回リ彼輩大イニ望ヲ失ヘルナ
ルニ至リ英國公使ウエート氏ノ周旋ヲ以テ其
ニセント欲セシカ大久保ノ使事既テニ全敗ス
領スルカ然ラサレハ支那ニ入テ剽掠ヲ縱マ
薩摩士族ハ今回台湾事件ノ結局ヲ聞テ大イニ
不滿ヲ懷クト云フ薩摩士族ハ竊カニ台湾ヲ奪



十一月十四日「ヘラルド」新聞抄譯

第三百九号 八枚半

大正十一年四月
櫻橋郵局
知

114
A 125
23



日清二國ノ難起リテ以來人心日ニ疑懼ヲ懷キ
翹首跂足シテ其論辨ノ成敗ヲ待ツイ既ニ數月
ヲ經テ後講和ノ望已テニ絶スルニ至テ忽チ靖
難ノ報アリタリ初メ支那政府固ク日本公使ノ
請フ所ヲ許サス公使ト總理衙門トノ談判既テ
ニ切迫シテ若シ其為ス所ニ任セ為メニ勸解ス
ル者ナクンハ其勢必ラス兵端ヲ開クヨリ他ナ
キニ至リシヲ英國公使其間ダニ立テ巧ミニ彼
此ヲ調停セシニヨリ支那五十万テイルヲ償フ
テ日本ハ台地ノ兵ヲ撤シ且ツ爾來ハ支那台地

ノ事ニ担当スヘキニ決シテ此大難穩ヤカニ定
マリタリ然ルニ我曹ノ極メテ見ンイヲ欲スル
ハ此結約ノ文章ナリ如何ト云フニ二國各自負
ニ強キ國ニシテ支那ハ日本ノ為メニ其地ヲ侵
サレテ却テ金ヲ出シ撤兵ヲ請フノ辱ヲ得タリ
ト為スヘク日本ハ永ク台湾ヲ占有スルノ權ア
リテ而シテ之ヲ棄ツルノ屈ヲ受ケタリト為ス
ヘク此間ニ立テ能ク二國ヲシテ甘心セシムヘ
キ文章ヲ作ルイハ必ラス至熟至練ノ筆ニ非レ
ハ能ハス蓋シウエード氏巧ミニ二國ノ曲直ヲ陳

辨シ二國ヲシテ各其國名ヲ失ハシメス且ツ兼
テ自カラ其非ヲ曉ラシメタルカニヨル者ニシ
テ固ヨリ支那ハ其台湾ノ責任ヲ怠リシニ依テ
遂ニ日本ヲシテ公使ヲ差遣セシムルニ至リタ
ルイヲ知ルヘク又日本ハ一ハ實地ニ經驗シテ
台地ヲ占有スルノ失計ナルヲ知リ一ハ本港及
他所ニ於テ近來數月ノ間頻リニ發行セル議論
ニ動カサレテ其不法ナルヲ曉リタルイアルヘ
シト虽トモ能ク二國ノ爭端ヲ綏定シ各其心首
肯セシムルニ至リタルハウエード氏ノ拮据彌縫

ニ由ルイ亦必ラス居多ナリ然レモ余ヲ以テ之
ヲ察スレハ今回ノ結約ハ猶膏ヲ以テ二双ヲ覆
ヒ其腹ヲ並ヘテ相臥セシムルカ如クナルヘシ
然レトモ余カ九月二十六日ノ刷行ニ論スル所
ノ如ク凡ソ世間ノ爭論中ノ九ハ必ラス曲直相
半ハスル者ニシテ今回ノ事ノ如キモ亦然リ支
那自カラ己レカ屬地ト称シナカラ台地ノ民ヲ
シテ屢其兇暴ヲ恣マニセシメ恬然トシテ顧
ミサルハ明ラカニ其曲ニシテ勉メテ懲治ノ責
ヲ免レントスルハ是レ獨リ占有ノ權利ヲ貪ホ

リテ其義務ヲ逃ル、ナリ然レトモ日本之ヲ口
突トシテ其生蕃ヲ討シ曰テ以テ之ヲ奪領セン
ト欲スルニ至リテハ又日本ノ罪ニシテ支那ハ
應サニ言フヘシ我レ固トヨリ我カ義務ヲ怠リ
タリト虽トモ今日ノ事ハ我カ當サニ為スヘキ
事ニシテ決シテ貴國ノ手ヲ下スヘキ所ニ非ス
然ラサレハ貴國當初何ノ故ニ之レヲ以テ我レ
ニ請フイヲ為セシヤ且ツ當時貴國ノ意兵ヲ用
ヒントスルヲ知ラハ我レ素トヨリ固タク之ヲ
争フヘシ貴國彼ノ地ヲ以テ我ニ属スト為ス

ハ曾テ貴國ノ為ス処ヲ以テ分明ナリ然ルニ今
日ニ至リ又曾テ其事ナシト言ハント欲スルヤ
ト
然レトモ日本ハ琉球人ノ為メニ既往ノ罪ヲ問
ハサル可カラス又其海客他日台湾ニ漂流スル
時ノ備ヲ為サル可カラスシテ而シテ日本之
ヲ支那ニ迫ルモ其無益ナルヲ知ル故ニ日本ハ
懲治ヲ以テ自カラ任ズルカ然ラサレハ島民ノ
兇惡ヲ放テ默シテ其害ヲ受クルヨリ他ナク日
本之ヲ以テ他人ノ境ヲ侵シタルハ決シテ罪ス

可ラス其他日本ノ非ナル所及ヒ支那ノ是ナ
ル所ハ曩日既テニ委シク論折シタレハ今復タ
此ニ一語ヲ贅スルヲ要セス唯此ニ曩日ノ論ヲ
再提シ彼此曲直ノ相問ハルヲ証スル者ハ此難
ノ解釋スルニ至リタル所ヲ示メス者ニシテ北
京ノ談判モ蓋シ諸子此ニ悟ルイアリテ能ク其
完成ヲ得タルナリ然レ氏此ニ一ノ解ス可カラ
サルイアリ此大難ノ能ク綏定ニ至リタル所以
ハ右ノ如ク説ヲ成セハ稍曉ルヘキニ似タレト
モ支那如何シテカ能ク日本ノ為メニ一錢ヲ償

フイヲ諾シタルヤ吾曹實ニ曉ルイ能ハス獨リ
我曹ノミナラス外間ノ人蓋シ皆然ルヘシ蓋シ
支那ハ一種異風ノ國ニシテ今回ノ結約ヲ以テ
毫モ國體ヲ辱シムルイナシト為ス可ケレトモ
其所謂國體ハ曾テ他方ニ知ラレサル國體ニシ
テ且ツ多ク羨ヤムヘキ者ニ非ス余ヲ以テ之ヲ
見レハ其償額中ノ一片金ヲ奉ケテモ尚其全國
ノ名譽ヲ掩フニ足ルヘシ
日本今回ノ争ニ於テ其条理上ニ在テハ大ニニ
吾曹ノ非議ヲ得ルト虽トモ其結局終ニ羨名ヲ

得タルイハ掩フ可カラス是レ實ニ其政府ノ挺
然トシテ撓マサルト其憤發興起シテ大イニ兵
備ヲ輝カシタルト又其華士族諸人ノ能ク國難
ヲ辨マヘテ義勇ヲ顯ハセシニ曰レリ故ニ日本
ハ初メニ熟思スルノ戒ニ背キタレトモ既一タヒ
事ヲ起シタレハ到底之ヲ貫キテ敵ヲシテ我國
アルイヲ知ラシメヨトノ戒ヲ善ク守リタリト
謂フヘシ是レ日本ノ為メニ称スヘキイニシテ
疑ヲ容レス又日本曾テ支那ヨリ償金ヲ得ルノ
意アリシヤ否ハ分明ニ知リ難タケレトモ今回

ノ結約ヲ以テ果シテ利ヲ規スルノ意アリタリ
トハ未タ言フヘカラス蓋シ此回ノ償金ハ唯票
民ノ眷族ヲ賑恤シ且ツ各地征討ノ費トシテ要
取セル者ニシテ日本内閣ノ意ハ專ハラ支那ヲ
シテ我カ征召ノ奉ノ正理ニ当スルイヲ承認セ
シメント欲スルニ在リ日本自カラ此奉ノ稍海
賊ノ為メニ逃カキヲ憂ヒ此事若シ歐洲ニ在
ハ大イニ不正ノ名ヲ得ルイヲ知リテ其汚名ヲ
免カレント欲スルニ急ナリ然ルニ輕佻浮躁ノ
徒此間ニ乘シ万国公法ニ據テ説ヲ進ムル者ア

リ政府遂ニ之ニ欺ムカレテ台湾ノ生蕃支那ニ
属スル間ハ永ク其蠻俗ヲ免カル、ノ期ナシ今
日本之ニ代テ其民ヲ開カハ是レ又義舉ニシテ
以テ永ク各地ヲ領スルノ口実ヲ得ヘシト謂ヘ
リ数月前支那ニテ出テタル一葉ノ新聞ハ明ラ
カニレセンドル氏ノ手ニ成レル者ニシテ日本
政府ハ之ヲ以テ至確ノ論ナリトシ大イニ其所
為ヲ支フルニ足レリトセリ然ルニ其後時日ヲ
經テ世間ノ之ヲ論スル者漸ヤク盛ナルニ隨ヒ
其不法ナルト失計ナルト共ニ漸ヤク分明トナ

リ日本政府其是ナル所ニ於テハ到底其主意ヲ
貫カント決スントモ又其非ナル所ニ於テハ頗
フル依違低徊ノ情ヲ懷キシカ今回ノ約成ルニ
及テ日本曾テ其欲スル所ノ主意ヲ達シ其垂涎
スル所ノ土地ヲ擲テ事平ラクヲ得タリ
今回ノ事平ラクタルハ實ニ我曹ノ悦ニ勝サル
所ニシテ之ニ依テ二國各幾万生靈ノ血ヲ灑ク
イヲ免カレ殊ニ日本ニ在テハ其匱耗ノ財ヲ空
盡スルイヲ免カレタリ又支那ニ在テハ今回ノ
事若シ真ニ兵燹ヲ開クニ至ラハ初メハ必ラス

日本ノ為メニ推挫セラルヘク後ニハ叛賊群起
スルイ必然ニシテ且ツ此ノ如キ大國ニ於テ一
且反乱ノ起ルイアラハ其狂焰抵止スル所ヲ知
ラス人命ヲ失ヒ禍害^毒ヲ流ス^毒前後其例ナキノ
盛ナルニ至ルヘシ又日本ニ在テモ戦闘ハ極メ
悪ムヘキ事ニシテ必ラス永遠ノ利益ノ之ヲ償
フニ足ル者ナカルヘク且ツ其開化ノ上進ヲ全
ク壅塞スルニ至ラサルモ之ヲ妨クルイ極メテ
甚シク教育工役其他一切ノ事業皆一時停廢シ
農夫ハ重斂ニ苦シ^毒措幣ハ其額ヲ増シ外債ハ

其數ヲ多クシ僅カニ貯フル所ノ餘金ヲ底ヲ拂
テ散セサルヲ得ス其勝敗ノ何レニ決スルヤ余
ヲ以テ見ルトキハ極メテ先見シ難ク世人ノ輕
々着論スルカ如クナラス若シ^獨猥^獨リニ兵數ト富
トヲ以テ論スレバ蓋シ支那ニ左袒スヘキニ似
タレ氏其兵數ノ多キハ即テ却テ其禍根ノ伏ス
ル所ニシテ又其富ノ如キハ寇盜四方ニ群起ス
ルニ當テハ復タ恃ムニ足ラサルヘシ
今回ノ事ニ於テ日本固トヨリ其欲スル所ヲ得
且ツ兼テノ大ニニ其國光ヲ輝カシタレトモ望

ムラクハ其曾テ經歷セル危難ヲ永ク銘心シテ
其今日揚々ノ情ヲ放テ曩日兢兢々ノ心ヲ覆ハシ
ム可カラス頃日日本ノ為ス所ハ譬ハ砲口ノ
險ヲ冒シテ泡沫ヲ攫マントスルカ如シ故ニ平
心秉氣ニ能ク其國ノ強弱貧富ト及ヒ戦後ノ衆
害トヲ思量シ勉メテ虚名ヲ貪ホルノ念ヲ絶ス
ヘシ當路者若シ今回ノ事ニ因テ其肩任ノ実ニ
重キヲ悟リ爾來弔リ其精心ヲ國內ノ事ニ注キ
テ專ハラ自修ノ計ヲ為サハ今回支那トノ難ハ
却テ後日ノ益ト為ル者アルヘシト虽トモ若シ

今回ノ事ニ褻レテ益虚誉ヲ求め彼ノ神巫ノ丸
削ノ如ク口ニ甘クシテ腹裏ニ苦キ諛言ヲ信シ
以テ輕躁無謀ノ挙ヲ為スイアラハ其挙假令全
勝ヲ得ルモ日本ヲ思フ者ハ以テ悦ヒト為サス
之ヲ惡ム者ハ勉メテ其实益ノ少ナキ一ヲ簸揚
スヘシ凡テ功名ノ途ニ於テ止マル所ヲ知ル者
ハ其功必ラス全タシ今日日本此語ヲ以テ其行ヲ
規セハ始メテ真ニ能名ヲ顯ハスヘシ

